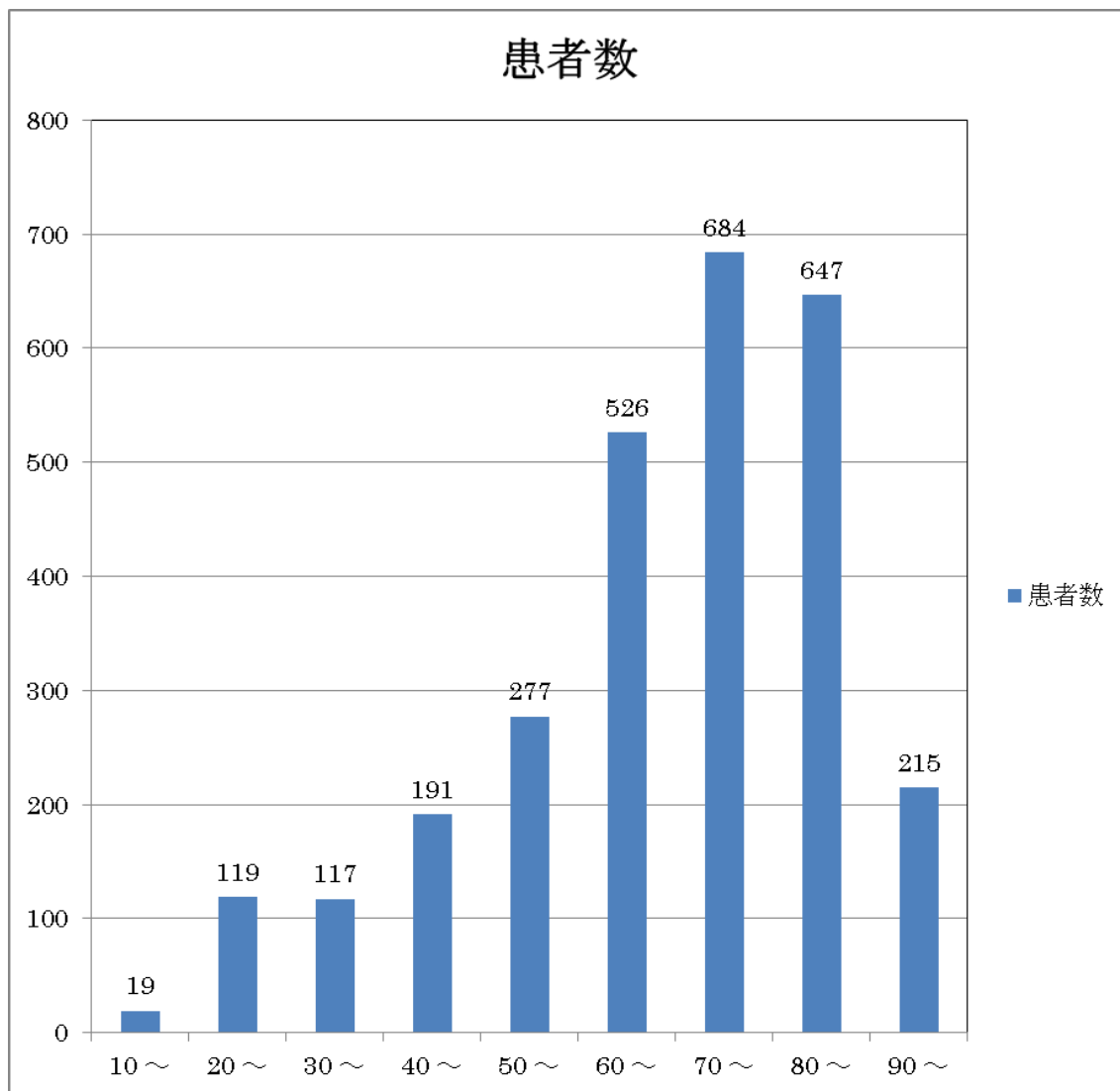


1.年齢階級別退院患者数

退院患者様の人数を10歳刻みの年齢階級別に集計しています。年齢は入院日の満年齢となります。



2.診療科別症例数トップ3

DPCでは入院患者様の情報が病気と治療方法（手術や処置など）によって2,873種類（包括対象外の分類も含む）の診断群に分類されます（平成26年度の分類）。診療科ごとに症例数上位3つの診断群分類について集計しています。指標に示されるそれぞれの項目に関しては以下の通りです。

○DPCコード

診断群分類を表すコードです。病気と治療方法の組み合わせによって分類されますので、同じ病気でも治療方法が違えばDPCコードは異なります。

○名称

どのような病気と治療方法で分類されているかを表します。

■短期3とは入院5日までの短期滞在手術等を包括的に評価しています。対象となる手術等と個々の点数は別に定められており、入院5日までに該当する手術等を行った場合は、原則としてすべての病院（DPC 算定病床も含む）、すべての患者様に対して、同基本料を算定します。

○平均在院日数（自院）

病院に入院していた日数（在院日数）の平均値です。

○平均在院日数（全国）

厚生労働省より公表されている平成27年度における全国のDPC対象病院の在院日数の平均値です。

○転院率

該当する症例数の内、当院から他の病院に移動して継続入院（転院）することとなった患者様の割合です。

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術なし 手術・処置等2なし	103	21.21	14.34	12.62	80.64
170020xxxxxx0x	精神作用物質使用による精神および行動の障害 副傷病なし	79	1.35	2.54	0.00	35.61
K7211----tan3	■短手3(内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術2cm未満)	61	2.77	-	0.00	65.25

当院の内科でもっとも多いのは肺炎です。平均年齢は80歳を超え、8割以上が救急搬送されています。次に多いのは急性アルコール中毒です。これは、当院が大阪の繁華街に位置し、地域柄件数が多くなっている状況です。次に内視鏡的結腸ポリープ切除術です。

循環器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1,2あり 手術・処置等2なし	22	5.86	4.87	0.00	68.50
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1なし、1,3あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	19	12.84	11.76	0.00	73.89
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷	16	21.00	18.30	6.25	81.88

循環器科でもっとも多いのは狭心症に対するカテーテル手術です。そのあと、ペースメーカー交換です。心不全の患者様の平均年齢は 80 歳を超え、高齢の患者様が多くなっています。

外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
060035xx99x4xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり	25	3.00	4.28	0.00	72.96
K6335-o15-tan3	■短手3(鼠径ヘルニア手術(15歳以上))	18	6.22	-	0.00	67.11
060150xx03xx0x	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等 副傷病	15	5.33	5.56	0.00	39.13

外科で多いのは大腸癌です。経過例としては内科で検査を行った結果、外科で手術を行い、化学療法のため短期入院を繰り返します。次に 15 歳以上の鼠径ヘルニア、虫垂炎の手術目的の患者様です。

整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	82	59.60	28.70	18.29	82.72
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし 副	59	60.29	21.52	15.25	80.78
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	19	6.47	5.70	0.00	53.68

整形外科で多いのは大腿骨近位端骨折、ついで胸腰椎の椎体骨折です。急性期病棟での治療後、同一施設内の回復期病棟に転棟しリハビリが継続可能です。平均在院日数が長くなっているのはそのためです。

形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
160200xx0200xx	顔面損傷(口腔、咽頭損傷を含む。) 鼻骨骨折整復固定術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	22	6.00	5.86	0.00	44.95
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)等 手術・処置等1なし	-	-	4.38	-	-
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	-	-	6.84	-	-

脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
010060x099030x	脳梗塞(JCS10未満)手術なし手術・処置等1なし手術・処置等23あり副傷病なし	64	29.14	18.08	3.13	70.00
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)手術なし手術・処置等2なし副傷病なし	38	68.89	19.32	10.53	61.87
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷手術なし手術・処置等2なし副傷病なし	33	9.88	7.52	3.03	61.70

脳神経外科では、脳梗塞、脳出血、頭部外傷などの脳の救急疾患を主に治療しています。

眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
K2821ロ-o-tan3	■短手3(水晶体再建術・眼内レンズ挿入・その他・片側)	73	2.89	-	0.00	75.75
020200xx9710xx	黄斑、後極変性手術あり手術・処置等1あり手術・処置等2なし	16	9.25	7.99	0.00	65.69
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症手術あり手術・処置等2なし片眼	10	7.00	8.62	0.00	63.30

眼科の入院はほとんどが手術目的となります。最も多い症例は白内障です。両眼に白内障を患っている患者様は片眼の手術後に一旦退院し、後日再入院して反対側の手術を受けられます。

泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢
D413-----tan3	■短手3(前立腺針生検法)	-	-	-	-	-
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術手術・処置等1なし手術・処置等2なし	-	-	7.59	-	-
110080xx99000x	前立腺の悪性腫瘍手術なし手術・処置等1なし手術・処置等2なし副傷病なし	-	-	8.92	-	-

3.初発の5大癌のUICC病期分類ならびに再発患者数

5大癌と呼ばれる胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌の患者様の人数を初発のUICC病期分類別、および再発に分けて集計しています。平成26年度中に退院した実患者数となっております。例えば一連の治療期間に入退院を繰り返すなどを行った場合は、同一患者に入退院を繰り返した回数分をかけた延患者数とします。

○UICC病期分類

国際対がん連合（UICC）によって定められた、①原発巣の大きさと進展度、②所属リンパ節への転移状況、③遠隔転移の有無の3つの要素によって各癌をⅠ期（早期）～Ⅳ期（末期）の4病期（ステージ）に分類するものです

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

5大癌	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃癌	-	-	-	-	-	-
大腸癌	-	-	11	15	-	-
乳癌	-	-	-	-	-	-
肺癌	-	-	-	-	-	-
肝癌	-	-	-	-	-	47

当院内科、外科では胃癌、大腸癌、肝癌の患者様を診察しています。胃癌、大腸癌は早期であるⅠ期の割合が高くなっており、癌ができるだけ早期のうちに治療を行い、患者様の負担を減らそうとしています。Ⅲ期やⅣ期の患者様には手術や化学療法などの状態にあわせた治療を実施しています。肝癌は再発することが多い病気です。当院でも再発した肝癌の治療の割合が多くなっています。

4.成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人の市中肺炎の患者様の人数を重症度別に集計しました。成人市中肺炎診療ガイドライン（日本呼吸器学会）による重症度分類システムを用いています。この指標では細菌による肺炎を集計しており、インフルエンザウイルスなどのウイルスによる肺炎や食べ物の誤嚥による肺炎、気管支炎などは集計対象外となっています。また、成人の肺炎の指標なので、小児肺炎も集計対象外となります。

○市中肺炎

普段の社会生活の中でかかる肺炎のことです。

○重症度

肺炎の重症度を表しています。スコア0は軽症、スコア1～2は中等症、スコア3は重症、スコア4～5は超重症をあらわしています。

○平均在院日数

病院に入院していた日数（在院日数）の平均値です。

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
重症度0	10	11.40	54.10
重症度1	63	25.16	82.97
重症度2	32	36.09	87.06
重症度3	-	-	-
重症度4	-	-	-
重症度5	-	-	-
不明	-	-	-

軽度の患者様の平均年齢が50歳代であるのに比べて中等症から重症では平均年齢が80歳代になっています。市中肺炎は年齢が上ると重症化しています。

5.脳梗塞のICD-10別患者数

脳梗塞等の分類にあたる患者様をICD-10コード別に集計しました。

○ICD-10コード

国際疾病統計分類－第10回修正（ICD-10）に基づいて、様々な傷病名が分類され、コード化されています。例えば、「I633（コード）」といえば「アテローム血栓性脳梗塞（病気）」といったように、コードによってその病気が表されています。

○平均在院日数

病院に入院していた日数（在院日数）の平均値です。

○転院率

該当する症例数の内、当院から他の病院に移動して継続入院（転院）することとなった患者様の割合です。

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群	3日以内	12	6.00	64.00	0.00
G45\$		その他	-	-	-	-
G46\$	脳血管疾患における脳の血管（性）症候群	3日以内	-	-	-	-
G46\$		その他	-	-	-	-
I63\$	脳梗塞	3日以内	158	52.49	70.84	11.45
I63\$		その他	-	-	-	-
I65\$	脳実質外動脈の閉塞および狭 窄、脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	-	-	-	-
I65\$		その他	-	-	-	-
I66\$	脳動脈の閉塞および狭 窄、脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	-	-	-	-
I66\$		その他	-	-	-	-
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉 塞症>	3日以内	-	-	-	-
I675		その他	-	-	-	-
I679	脳血管疾患、詳細不明	3日以内	-	-	-	-
I679		その他	-	-	-	-

脳梗塞等の分類にあたる患者様の集計なので、ほとんど脳神経外科に入院された患者様になります。脳梗塞の症例の割合が多く、特に発症日から3日以内の急性期脳梗塞が多くなっています。当院脳卒中センターではt-PA静注療法に代表される内科的治療や脳梗塞やくも膜下出血、脳出血には従来から行われている開頭術とカテーテル治療や神経内視鏡手術などを行っています。当院ではケアミックス病院の特徴を生かし、平均20日程度の急性期の治療後、引き続いて回復期病棟でリハビリを行っています。当院の入院日数が長く、転院率が低いのは自院で一貫した治療とリハビリを行っているからです。

6.診療科別主要手術の術前、術後日数症例数トップ3

診療科ごとの手術について症例数上位3つを集計しています。指標に示されるそれぞれの項目に関しては以下の通りです。同一手術において複数の手術手技を行った場合、主たるもののみカウントしています。

○Kコード

手術術式の点数表コードです。

○名称

手術術式の名称です。

○平均術前日数

入院日から手術日までの日数の平均です。手術日当日は含まれません。

○平均術後日数

手術日から退院日までの日数の平均です。手術日当日は含まれません。

○転院率

該当する症例数の内、当院から他の病院に移動して継続入院（転院）することとなった患者様の割合です。

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術（長径2センチメートル未満）	77	2.34	2.25	1.30	66.56
K6152	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	43	1.14	7.23	0.00	74.84
K721-21	内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径2センチメートル未満）	21	2.43	1.95	0.00	62.43

当院内科では、内視鏡による大腸ポリープ切除術、肝癌に対する血管塞栓術等を行っています。

循環器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	21	1.62	3.62	0.00	68.57
K597-2	ペースメーカー交換術	15	1.53	8.13	0.00	73.93
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）	-	-	-	-	-

狭心症に対して冠動脈ステント留置術、ペースメーカーの交換術・移植術、アブレーションを行っています。

外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7434	痔核手術(脱肛を含む。)(根治手術)	20	1.45	4.00	0.00	63.45
K6335	ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)	18	1.17	4.06	0.00	67.11
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	14	1.79	4.86	0.00	60.50

外科では痔核手術、ヘルニア手術、胆嚢炎や胆石症などの胆嚢疾患に対して、胆嚢摘出術を行っています。急性胆嚢炎を起こされた患者様は、まず内科的な治療で炎症を改善させて一旦退院し、改めて外科に手術目的に再入院するケースが典型的です。胆嚢摘出術は腹腔鏡視下で試行されることが多く、手術に対する患者様の負担をできるだけ小さくするように努めています。

整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0461	骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	87	2.97	59.86	11.49	78.85
K0462	骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	43	3.33	21.19	2.33	59.81
K0811	人工骨頭挿入術(肩、股)	35	2.91	59.91	20.00	84.17

最近の患者様の特徴として高齢化に伴い合併症が多いことが挙げられます。当院は総合病院であるため術後の合併症に対し治療が可能であり、また回復期病棟にて受傷前のADLに回復するまで治療を受けていただけるので、術後平均在院日数が長くなる傾向にあります。

形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K427	頬骨折観血的整復術	-	-	-	-	-
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	-	-	-	-	-
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径4cm以上)	-	-	-	-	-

脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K1781	脳血管内手術(1箇所)	27	3.15	70.67	14.81	57.15
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	10	4.80	20.00	0.00	66.30
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	-	-	-	-	-

脳動脈瘤、脳動静脈奇形等の脳血管異常に対して、血管内手術用カテーテルを用いて手術を行います。

眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合) (その他のもの)	74	0.00	1.91	0.00	75.76
K2801	硝子体茎頭顕微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	29	0.48	6.69	0.00	65.45
K28214	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合) (縫着レンズを挿入するもの)	-	-	-	-	-

眼科では白内障に対する手術である水晶体再建術が大部分を占めています。次いで挙げられるのが、硝子体茎頭顕微鏡下離断術です。増殖糖尿病網膜症や網膜剥離、黄斑円孔などの網膜硝子体疾患に対する手術です。患者様の状態によっては、上記の白内障手術と硝子体手術を同時に行うこともあります。

泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K80364	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	-	-	-	-	-
K797	膀胱内凝血除去術	-	-	-	-	-
K80360	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他のもの)	-	-	-	-	-

7.播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・処置などの合併症の請求率
播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・処置等の合併症の患者数と請求率を集計しました。

○DPCコード

14桁あるDPCコードのうち、6桁で集計しています。DPCコード6桁とは病名による分類を表しており、治療方法は分類に関連しません。

○播種性血管内凝固(130100)

感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。治療に大きな医療資源が投入されるため、該当するDPCで高額な点数が設定されています。

○敗血症(180010)

感染症によって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。治療に大きな医療資源が投入されるため、該当するDPCで高額な点数が設定されています。

○真菌症(180035)

真菌による感染症です。

○手術・処置などの合併症(180040)

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。合併症はどのような術式でもどのような患者様でも一定の確率で起こり得るもので、医療ミスとは異なります。

○入院契機

DPCコードにて分類される包括請求の対象となる病気（DPC病名）とは別に、入院の契機となった病気（入院契機病名）がそれぞれの入院患者様につけられています。DPC病名と入院契機病名が「同一」か「異なる」かにより分けて集計しています。「同一」ということは、ある病気の診療目的で入院して、その病気の治療を行ったということを示します。一方「異なる」ということは、ある病気の診療目的で入院したが、併発していた、もしくは入院中に発症した違う病気（この指標の場合は、播種性血管内凝固や敗血症、手術・処置などの合併症）による治療が主だったものになってしまったことを示します。

○請求率

全入院患者様のうち、該当するDPCで入院費の請求となった患者様の割合です。

※10未満の数値の場合は -（ハイフン）を記入しています。

DPC	入院契機	症例数	発生率
130100	同一	-	-
130100	異なる	-	-
180010	同一	10	0.36
180010	異なる	-	-
180035	同一	-	-
180035	異なる	-	-
180040	同一	-	-
180040	異なる	-	-